2022年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場: 日本体育大学　　【2022/5/14】

1部

日本体育大学	19	11	―	1	2 成蹊大学
		8	―	1	
			―		
			―		
			PSO		

審判: 唐木 慎太郎
中 哲朗

この試合のプレー集計

日本体育大学				成蹊大学
	26	SH数	10	
	11	速攻数	2	
	15	ST・SB	2	
	7	SH・P誘発アシスト	3	
	67%	GK阻止率	10%	
	4	EX反則数	2	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

成蹊大は2011年シーズン以来の1部リーグ復帰。今シーズンは前日本代表の志水祐介氏をコーチに迎え、1部リーグ定着への足がかりをつかめるかどうか。対する王者日体大は、宮澤新主将でリーグ戦の連勝記録をどこまで延ばせるか。

1P
日体大のセンターボールでスタートしたゲームのファーストSHは主将④宮澤。そこは決められなかったが、直後の切り返し攻撃で⑦渡邉が独泳となって日体大先制。その後、成蹊大は日体大DFプレッシャーに負けて連続失点。しかし、⑦渡邉のパスミスを突き、成蹊大主将の⓫篠崎がカウンターを決めて、早い段階で得点をあげた。しかしその後は日体大の猛攻。最後は成蹊大のSHをブレークしたGK①佐々野がノータイムで超ロングシュートを成蹊大ゴールに叩き込み、日体大11－1と大量リードで第1ピリオドを終えた。

2P
センターボール後に③砂邊が退水を奪って、そのままゴールを決め、このピリオドも日体大の猛攻が続いた。日体大17-1成蹊大となった直後、成蹊大がセンター位置で❺森田が退水を奪い、そこを❻世木澤が決めて2点目をあげた。しかし、その後も日体大の攻撃は緩むことなく、最後は⑦渡邉が相手ボールを奪取してからカウンター独泳で19点目を決め、日体大が難なくコールドゲームで初戦を制した。

成蹊大は第2ピリオド、果敢に攻めて退水を奪うチャンスも多かったが、得点は1点に留まってしまった。得点差は大きく開いたが、積極的に前に出ようとする水球スタイルは成蹊大らしく、1部リーグの中堅チームとは互角に近い戦いができる予感を感じさせる試合ぶりであった。